

2018 年度参加学生の声



実習先：紀州白浜温泉むさし
地域創造学部地域創造学科 1 年（修了時）
中野 悠輔さん

インターシップではどんな活動を？

白浜の温泉旅館の社員寮に 2 週間住み込みでのインターンシップでした。最初の 1 週間は旅館の全般業務を経験し、主にバイキングレストランの運営とクローク業務、後半の 1 週間は参加者 5 名が 2 チームに分かれて、プロジェクトに取り組みました。

私のチームは、学生向け宿泊プランの作成プロジェクトに取り組むため、和歌山の観光地を視察し、プランに必要な情報（お金・時間・ニーズ）を収集した上で、会議室でプラン作成会議を繰り返しました。広報部の社員さんの意見を聴きながらプラン内容を検討した上で、実習最終日に社長に対してプレゼンテーションを行い、その結果、観光地スポットの写真を撮って SNS にあげると、温泉チケットや割引券などのサービスが受けられるというプランを商品化していただくことができました。

インターンシップを通じてどんな発見や気づきがあった？

中学、高校時代にも職場体験を経験しましたが、今回のインターンシップはより実践的で、深い学びがありました。実際に商品化できるようなプランにたどり着くまでには、社員さんからダメ出しがあったり、ボツになった企画もありましたが、その時に「プロジェクトの目的」をしっかりと理解したうえで取り組むことの大切さが身にしみてわかりました。たとえば、最初白浜は夏は繁忙期で満員なのに、夏限定のプランを提案してしまったのですが、それを指摘されたときに、目の前の課題にとらわれすぎて、根本的なところが見えなくなっていたことに気づきました。

社員さんからの言葉で印象に残っているのは「失敗してはダメ」という教えです。これは、何も考えずに取り組んではいけないという意味で、どうやったら失敗しないかを常に考えながら取り組まなければ、成長につながらないということです。インターン生を育ててくださっていると実感できるありがたい言葉でした。この言葉は、実習後の学生生活にもずっと役立っています。

温泉旅館ならではの学びとしては、和装での礼儀作法や、下駄や着物の裾さばきがスムーズにできるようになり、アルバイト先の飲食点でも役立っています。